

# 音楽科

## における深い学びに到達した児童像

柱① 情報の分析	柱② 考えの形成 ・再構築	柱③ 既習・新知識 の活用	柱④ 課題発見
<b>深い学びポイントとの関連</b>			
3自力 4協働	3自力 4協働 5練り上げ	2見通す 3自力 4協働 5練り上げ	1つかむ 2見通す 6メタ認知
◇共通事項を基に、音楽の特徴を捉えることができる。 ◇思いや意図をもって表現できる。	◇共通事項を理解し、音楽表現の幅を広げ、また、協働して自己の音楽表現を深め再構築できる。	◇何度も試したり、話し合ったり、振り返ったりすることで、音楽表現の細部までこだわることができる。	◇様々な音楽経験から、音楽への関わり方を見つける。よりよい音楽表現を考えることができる。

### 児童像の実現のために効果的だった手立て

#### 【学びの自律化・個別最適化】

◇予め『音楽のもと』となる音型とリズムパターンを提示

#### 【学びの自律化】

◇旋律づくりに向けた音型の効果についてやリズムパターンの話合いの設定

◇個人でじっくり考え、グループで話し合う学習の進め方

#### 【探究化】

◇グループで主観的・客観的に話し合うための録画機能や録音機能の使用

#### 【その他】

◇言語活動の充実に向け、音型に名前を付ける。

### 実践の成果(○)と課題(▲)

○オクリンクを活用することで、音符を記入する手間なく決められたリズムを並び替えながら実際に試し、祭りの音楽を考えることができた。

○音型に名前を付けることで、児童が「選択する、判断する」手立てとなった。(じ・し・ゃ・く)

○全体の時間、個人の時間、グループの時間のバランスが効果的だった。

○パワーポイントでリズム遊びの他、活動の流れについて示したことが児童にとっても分かりやすかった。

○ルーブリックの活用により指導と評価の一体化を図り、自分に合ったコースで学習することで、丁寧に学習を進め、目標と向き合う児童の姿を実現できた。

▲グループ活動がさらに充実するためにも個人での時間をもう少し確保する必要がある。

▲板書計画が背景にならないよう、児童の実態に合わせた情報の提示を工夫する必要がある。

▲ICTの手立てが最適な部分とアナログの手立てが最適な部分を検討する必要がある。

